

おぐらおか

(題字は初代学長 山田守英氏)

第 84 号

平成 7 年 9 月 14 日

編集 旭川医科大学
 厚生補導委員会
 発行 旭川医科大学教務部学生課



(宮本俊雄)

秋の日

再任にあたって……………学	長… 2	医大祭を終えて……………後藤 順一…10
副学長に就任して……………安孫子 保… 3		入学者選抜方法に関するアンケート結果……………10
副学長に就任して……………久保 良彦… 4		卒業生の動向……………12
旭川医科大学に入学して……………和田 直樹… 5		平成7年度後期分授業料免除及び延納・分納について……………13
旭川医科大学に入学して……………藤沢 智美… 5		平成7年度日本育英会奨学生の募集について……………13
クラブ今昔(ラグビー部の20年)…柳内 充… 6		学生教育研究災害傷害保険の加入について……………13
クラブ今昔(医療研究会いまむかし)…清光 寛… 6		旭川医科大学学内 LAN (AMEC-NET) の開設にあたって……………14
クラブ今昔(E S S)……………今村 恵美… 7		窓 外……………木村 昭治…15
クラブ今昔(野球部今昔)……………山口 亨… 7		訃 報……………16
講師に昇任して(Back to 旭川医大)…松井 利仁… 8		外国人留学生交流会実施される……………16
研究室紹介……………外科学第一講座… 8		教官の異動……………16
第42回地区体準硬式野球4度目の優勝…………… 9		表紙の絵について……………16
第38回東医体(夏季)開催される…………… 9		



再任にあたって

学長 清水 哲也

この度、7月1日付けをもって学長に再任されましたので、「かぐらおか」の紙上を借りて、全学の皆様へ改めて、ご挨拶をさせていただきます。

想い起しますと平成3年7月1日付けで、学長に任命されてから、早くも4年の歳月が経過したことになります。

丁度、その時期は平成2年12月から、平成3年3月にかけて、本学医学部附属病院の看護職員に大変な欠員を生じ、看護部から病院運営委員会の席上、各診療科とも看護職員の負担を軽減するために「手術件数を減らすこと、さらには各科とも自主的に病床使用数を減らしてほしい」との強い強い要望があり、各科とも泣く泣く、この提案を受け入れ、結果として病院全体の平均稼働率が60%台という「新設医大病院」中、最下位という何とも惨憺たる「ランク」に転落をしてしまったのであります。

したがって各方面へ学長就任のご挨拶に参上しても、お祝いの言葉ではなく、「大変な時期に就任されましたなあ」という同情の声だけでした。

この原因は、実は二つあります。その一つは札幌市が早々と打ち上げた病床数の総枠規制に対応するために、札幌市内の私的医療機関の「駆けこみ」増床であります。

増床をすれば看護要員の確保が必要になります。そのため札幌市内の病院事務長さん達が、当時は今と違って「金」余りの時代でしたから、その資金力に物を言わせて、本学附属病院の看護職員に猛烈な「働きかけ」をされ、そのため、本院は文字通り札幌市内の看護婦不足解消のための「草刈り場」にされてしまったのであります。

もう一つの原因は、本院看護婦宿舎の居住性の悪さでした。共同トイレ、共同浴場という劣悪な宿舎事情は、若い看護系職員にとっては「こんな前近代的な宿舎などには到底、住む気はしない」と、続々と宿舎を出始め、入居率30%という状況になりまし

た。

そこで文部省の「教育施設部」へ陳情をくりかえしましたが、国有財産管理法では改築は25年以上を経過したものに限り（本院看宿は築17年）と謳ってあるために難航致しましたが、前事務局長と力を合わせて努力を重ね、遂に8億5000万円の改築予算を獲得、当時150室あった部屋数を100室に減らすことにし、そのかわり3室をつぶして2室とし、1室の面積を50%増とし、各室に750万の予算を投じて、バス、トイレ、システムキッチンを設備したところ、「看宿」の入居率は急上昇し、現在では略100%に達しております。

また、これから申し上げる内容は、当時、北海道新聞紙上に大々的に報ぜられておりますので、あえて実名を記させていただきますが、札幌国立病院と旭川の国立道北病院が正規の看護定員数をはるかに超過する臨時職員を雇いあげていることが、厚生省の知るところとなり、そのため、それぞれ付置している看護学院の卒業予定者を採用することが出来なくなり、本院に殺到するといった、いわば「追い風」が吹き、本院の欠員問題は次第に好転致しました。

次に病床稼働率がよく、外来患者数が多い診療科に多く予算配分をするという、前第1内科の小野寺教授の創案が、水戸病院長によって実行され、本院の経営内容も、ようやく愁眉を開くに至りました。

一方、本学の教育成果も、長年「日本医学教育学会」の重鎮的立場にある、教育・研究担当の東副学長の献身的な努力が見事に結実し、今春の「医師国家試験」合格率は、実に全国第2位、国立大学中第1位という素晴らしさであります。

かくて4年間にわたり、ご尽力を賜った東・水戸両副学長に深甚の敬意と謝意を表わせて頂いて、学長再任のご挨拶と致します。



副学長に就任して

副学長 安孫子 保

今年の6月の末に、清水学長から教育研究および厚生補導担当の副学長をするようにとのお話がありました。私にとってはまさに晴天の霹靂でした。というのは、私は過去に副学長を務めさせていただきましたし、現在、日本薬理学会の理事長を務めております。もし、薬理学会の会議と旭川医大の会議（または行事）が重なった時には、来年3月までは薬理学会の会議に優先的に出席させて頂かなければならない立場にあります。学長に以上の事情を説明しましたが、それでも副学長を引き受けて欲しいとのことでしたので、お引き受けした次第です。

私はこれで下田学長と清水学長という2人の優れた学長に仕えることになりました。このことは私個人にとりまして実に光栄なことであり、幸運だと思っています。下田学長は旭川医大という「城」の内部をきっちりと整備され、物事の順序を教えてくださいました。

清水学長はこの4年間に旭川医大という「城」をさらに発展させるために、文部省との連絡を密にし、旭川医大の考えを他の大学や文部省に理解して頂く努力をして下さいました。その努力の成果の一つは看護学科の新設です。看護学科の新設は単に新しい学科を設置するというだけの意味ではなく、日本の18才人口が少なくなりつつある中で、旭川医大が21世紀に生き残るための重大な要件であるというのが学長の考えです。これはまさに卓見であります。医療は医師のみでは成立せず、コメディカル関係者の協力によって初めて成立します。同様に、コメディカルの発展があってこそ旭川医大の発展があり、生き残りもあるのです。現時点では、看護学科の新設はまだ決まっていませんが、一刻も早く決めて頂くために、学長以下事務局はがんばっています。

さて、清水学長は平成7年7月に学長に再任され、8月には久保教授と私が副学長に任命されました。これからの2年間は清水学長の総まとめの時期にな

ります。私ども2人の副学長は一致協力して清水学長を支え、旭川医大の将来を見据えた仕事をする責任があると心得ています。

教育研究および厚生補導担当の副学長というのはどんな仕事をするのでしょうか。それは学生、大学院生、研究者がそれぞれの目的を達成するために、良い環境を整備し、種々の協力をすることです。大学に今求められていることは、学生に対して学問的に高いレベルの医学教育を施すことは勿論ですが、それにも増して重要なことは、ヒューマンイズムの精神に富んだ、人間らしい医師を育てることです。ヒューマンイズムに富んだ人間らしい医師になるには、学生は医学を学ぶとともに自らに教養をつけるための努力をしなければなりません。教養をつけるという意味は「自分の人生の意味を深く考えること」です。このためには文学作品や評論やエッセイなどを読んだり、映画や芝居などを見たり、一般教育の文化系の講義を聞いたりして世界の先達の考えを吸収し、身の回りの先輩や友人とも話し合っ「生き甲斐」に関する自分の意見をもつのが良いと思います。

研究の面では、旭川医大でなくては出来ないような研究を伸ばしていくことが必要だと思います。若い研究者を育て、有能な研究者を大事にしていくことも大切です。良い研究をし、それを論文にして一流雑誌に印刷公表し、世界中の研究者の高い評価を受けた本学の研究者に対しては、大学としてもそれなりの評価をすることが必要でしょう。

最後にお問い合わせがあります。副学長というのは学長と学内の皆さんの中間に居る存在です。皆さんからの建設的なご意見を是非お寄せ下さい。いつでも気楽にご意見を聞かせて頂ければ有難く存じます。



副学長に就任して

病院長 久保良彦

このたびはからずも副学長（診療担当）兼附属病院長を仰せつかりました。身に余る大任であります。誠意を盡し勤めたいと思っております。

さて、わたくしは開学以来これまで第一外科教室でお世話になって参りましたが、就任に当り改めて大学附属病院（以下大学病院）の役割について考えてみました。よくいわれていることですが、臨床教室の使命は教育・研究・診療という3本の柱を支えることとされております。どちらかというと実際はその逆の序列になりがちであります。大学病院の役割もそれにびったり当て嵌まります。

大学病院は医学部学生の卒前教育の場であることはもちろんであります。卒業後成長期の医師の臨床研修あるいは近年の足早い進歩に対応する医師の生涯教育にその主要な場を提供していることはご存知のとおりであります。加えて、薬剤師・看護婦・放射線技師・臨床検査技師など、医療に欠くことのできないパラメディカルスタッフにとりましても、その実習・研修の場として大学病院は機能し、医療の高度化の推進に役立っております。

また、大学病院では日々の臨床を通じ、新しい医療技術や高度先進医療の開発研究がおこなわれております。それらの成果は臨床医学関係の学術集会において発表されますが、それらの全体に占める割合が圧倒的で、大学病院における臨床を通じた研究がいかにもわが国の医学・医療の進歩に大きな貢献をしているかがわかります。

もちろん、病院でありますから日常の診療が主体となります。大学病院はわが国で高度な医療をおこなうことのできる中心的医療機関として位置付けられます。一般の病院では診断・治療の難しい重く、複雑な患者を受け入れるなど、地域の中核的医療機関としても大きな役割を果たしております。ちなみに、医療法の改正を機にこれまでにすべての国立大学附属病院が「高度先進医療を一定条件下におこない特

別な診療報酬が受けられる」特定機能病院として承認を受けているということでもあります。

このように大学病院は教育・研究機関であると共に、わが国の中核的医療機関としての役割を果たしているわけですが、国の厳しい財政状況下で従来のややもすれば親方日の丸的な運営が許されなくなつて参りました。各国立大学附属病院がそれぞれに運営改善に努めながら前述のような大学病院の役割を果たす必要にせまられているのが現状といえます。この運営改善にはいろいろなアプローチあるいは手だてがありましよう。わたくしはここで大学病院の原点にかえって考えてみたいと思います。「大学病院へ行けば最高の医療が受けられる」というのが、長い間に培われたわが国の根強い国民的感情であります。近年の医療技術の普及は極めて迅速であり、全体の医療レベルも著しく向上しております。それにも拘らず大学病院に対する患者の期待はほとんど不変で、宗教的な信仰を思わせるほどであります。大学病院はこの患者の期待に応える責務があると思えます。より良質な、あるいはよりレベルの高い医療を提供するべく努め、患者の期待に応えなければなりません。それがまた病院の実績向上に結びついて、教育・診療スタッフの充実、診療経費・設備の充足あるいは専門細分化に対応する診療科の増設といった新たな要望の実現にも繋がろうかと期待される訳であります。要は困難な状況下で実績を積み上げなければ道は仲々開けないということになります。甚だ雑駁な存念ではありますが、病院長が潤滑剤となって院内の円滑なコミュニケーションと医師を中心としたチームワークの緊密化を計り、これらの目標の実現に向け努力して参りたいと存じております。学内の皆様のご理解とご支援を切にお願い申し上げます。

旭川医科大学に入学して

第1学年 和田 直樹

僕が何故この雪が多く、寒さのきびしい旭川へ来たのかというと、僕は実は札幌へ行きたかったのであるが、偏差値というものによって、少し札幌からはずれたのである。しかし、旭医に合格したことを知ったときは、本当にうれしかった。もちろん札幌への未練は少々あったが、僕は行きたかった場所がちがっても、医者を目指すことには変わりないと思いき喜んでこの大学へ入学させてもらうことになった。

入学できることはよかったが、やはり不安も多かった。大学の雰囲気などは分からなかったし、又、今まで地元の中学、高校と通い初めて単身京都から旭川の地へ移ってきたのだから、僕にとって不安は大きかった。しかし、その不安も先輩方によって消された。というのは、入学式前旭川へやって来た時、クラブの勧誘で囲まれたのである。まさかクラブの勧誘がこんなすごいものとは思っていなかったので、驚いたけど、それより、そのようにされたことによ

って、この大学になじめる気がして、不安が一気になくなった。

入学してから数カ月がたち、もう夏休みである。クラブ活動にも励んでいるが、夏休みがおわれば試験が目前となる。すでに物理の試験を一度受けたが、きびしいものだと思身にしみて感じた。夏休みがおわると全科目の試験があるわけだが、選択科目はそれ一回で決まるものが多い。だから落とすことはできない。クラスやクラブの友達と協力しあい、入学時と同じ人数で六年間すごせればと思う。

これまで、たった三、四カ月で感じたことを書いたが、僕らが医師となるまでの長い道のりにまだほんの少し足をふみ入れただけである。現在、多くの人が色々な部活に参加しているが、その参加する部で各々が活動し、いつもみんな医師目指していること程すばらしいことはないと思う。自然に囲まれた環境のよいこの大学で、自分達が心にえがく医師像を目指し頑張っていきたいと思う。

旭川医科大学に入学して

第1学年 藤沢 智美

待ちに待った大学生活を、旭川で送ることになりました。北海道＝リゾート地という感覚でいたため、4月の雪には泣かされましたが、今はこの地の環境の良さに感動しています。

大学では部活動が栄えであるのに驚きました。医学生は勉強ばかりしてきた人達ばかりだという認識があったので、運動で汗を流すことなど考えてもいませんでした。私も運動はあまり得意ではありませんが、「体力をつけよう」と思い、初めて運動系の部活に入部しました。最近、やっと腕に小さいながらもかわいい筋肉が出現し、友人達に見せびらかしている次第です。先輩方も良い人達ばかりで、「恵まれているな」と感じています。

さて、学生の本分である勉強の方はというと、大変の一言です。確かに今までと違って自由になる時間は多くなりましたが、授業の時間が長い分、進み具合も速くて慣れない間はオタオタしました。しかし、一週間後にはすっかり白紙状態になっている脳をフル回転し、記憶をたどり、復習しておけばよ

かったと後悔しつつも、やってもこの頭では効果無しに違いないと決め、またこの動作を繰り返すことに慣れてしまい、オタさえしなくなりました。いつか、9月の末には後悔の波がドドーンと押し寄せるだろうとはわかっているのですが…。

大学に入ってから医師への道の視野が少し広くなりました。自分の理想を持って医学部を受験して入学したわけですが、あまりにも情報が不足していたことを痛感させられました。人工受精の話や、北海道での地域医療のことを聞き、そして新歓実習での手術見学を体験した上に、日常的に白衣を着た上級生や車椅子に乗った患者さんに行き交うと、医学生であることや医者になることを実感します。自分の目指していた分野以外にもまた同様に大変で充実していることもよくわかります。これからもっと多くのことを学び、実習し、一人前になるまでの道は遠いものですが、とりあえず一つ一つをきちんとこなしていこうと思います。

初めての一人暮らしの大学生活ですが、大学も楽しくうまくやっていけそうです。有意義な生活を送って夢を実現すべく、努力していきたいです。

ク ラ ブ 今 昔

ラグビー部の20年

第3学年 柳内 充

主将から「ラグビー部の20年を書け」と原稿を渡されましたが、なにぶん資料がないために、かなり不正確で独断と偏見があるとは思いますが、お許しいただきたいと思ひます。

昔はラグビー部に部誌があった様で、その第2号がいま残っています。3号以降がいくら探してもないので多分2号で休刊になっています。それによると、昭和49年、ラグビー部が結成されました。これは旭川医科大学における初のクラブだそうです。創部時に中心となられたのは一期の磯辺雄二先生、斉藤達也先生であったそうです。その後、同年6月に初試合、つづく51年には初勝利をあげるまでに成長します。第六期生が主将となる頃より旭川日赤に勤務している柳内統先生が教えにこられるようになりました。実質的な監督としてそれ以来ずっと教えていただいています。先生といっても皆さん御承知と思ひますが私の父です。ラグビーの試合というのはほとんど週末に行われるので、週末になると一緒にグラウンドに行きました。当時は現在のように周辺に建物などなく、周りは畑だらけだった記憶があります。私は幼稚園に通っているときからこのラグビー部とは関係があるわけです。私の記憶によると小学生の頃よりラグビー部の人々が家に来るようになり

ます。ラグビーの話をするという名目で飲んでいたような気がしていたのですがそれは私の偏見かもしれません。

父のコーチの成果かどうかは知りませんがその二、三年後に東医体でベスト8に入るという快挙をなしとげます。このときは前年度優勝校である慈恵医大を破ったそうです。それが東医体での最高成績のようで、それ以降は東医体は目立った成績はないようです。

時代がとんでしまって申し訳ないのですが、昨年からは札幌医大との定期戦がはじまりました。昨年は旭医が勝ちましたが、今年は札医が勝ち、対戦成績1勝1敗で、これから先早明戦のようにお互いいいライバルとしてやっていくのではないかと思っています。また、昨年は20周年にもあたり、20周年を記念してOB戦と祝賀パーティがありました。このときはかなりのOBの先生方が集まって下さいました。

今年は道大会はDブロック残留、東医体は1回戦の慶應大学戦を勝ち、2回戦で自治医科大と対戦しましたが、惜しくも負けてしまいました。何とかベスト8を上回る成績を残したいと思っています。

いろいろとエピソードはあったのですが紙がなくなってしまうので、だらだらとつたない文で申しわけないです。

医療研究会いまむかし

第2学年 清光 寛

1973年11月ごろ、1期生のなかでクラブ作りの準備が湧き上がりました。そして1974年11月ごろ、学生会の成立とともに医療研究会が発足します。この頃は、「社会制度、医療を学ぶ」ことが中心でしたが、先輩もいなく、教えてくれる人は殆どいなかったので、喫茶店などで自分たちだけで学ぶことが活動の中心だったそうです。

1975年7月には、初めてフィールドワークを白滝

村で行います。小学校に寝とまりして様々なことを学び、交流したそうです。10月に行われた第1回医大祭にて無医村についてフィールドのまとめを発表したそうです。

その後、紋別や音威子府村などでフィールドワークを行うとともに、日常的に医療制度や社会保障、哲学などを学んできました。

運動系サークルとのかけもちが多く、なかなか大変ですが広く医療を学ぶ活動にとりくんでいきたいと思ひます。

E S S

第4学年 今村 恵美

時々“英会話クラブ”と呼ばれることを憤慨する部員諸氏が多々おられました。私自身も新入生歓迎会時にあがってくるパンフレット類を見まして、“ESS”と“英会話クラブ”が混在しているのを不思議に思いながら訂正を繰り返しておりました。ところが、その真相が、今回この原稿依頼を受けてESSの歴史について調査したところ、多少明らかになりましたので、ここにご報告したいと思います。

ESSのルーツは古く、昭和49年7月、語学研究会として発足したのが始まりでした。その後、昭和52年4月には英会話クラブと名称が変更されて活動が続けられてきました。ですから、事務手続き上ではどこにも“ESS”という言葉は出てこないの、新歓実行委員の人に、「クラブの名前が間違っているじゃないの。直しといてね。」

と詰め寄ったのは、私の全くのお間違いだったのです。委員の方、ごめんなさい。

ところで、皆さん、ESSが何の略称であるかは

ご存時ですか。ESSはEnglish Speaking Societyの頭文字なのです。英語を楽しみながら話し、自分の世界を広げましょう、という目的のために集った集団、という感じでしょうか。現在部員は約20名。その中には留学生も含み、毎週木曜日のmeetingでは、Simonの楽しいパフォーマンスつきの話に手伝われて、国際色豊かな明るいmeetingとなっております。今年は現在までに11人の1年生部員を迎えることができ、近年稀に見る盛り上がりを見せています。

また、今年は初めて学祭に出店しました。運動部と兼部の人が多いため、4ヶ国もの料理を出すInternational Restaurantが運営できるものかと非常に不安な気持ちが強かったのですが、先輩方のリーダーシップや1年生の若い力に押されて、大成功という出来であったと思います。そしてその陰にはイギリスのスコーンを作ってくれたSimon、中国の水ギョーザとお菓子作りのご指導を頂いた陳敏先生ご夫妻の力がありません。本当にありがとうございました。大所帯となったESSは今年、名称変更の続きとともに力強い第一歩を踏み出した気がします。

野 球 部 今 昔

第5学年 山口 亨

旭川医大準硬式野球部は、昭和49年早春に産ぶ声をあげて以来、今年で22年目をむかえています。この歴史は、1期生の落合聖二先生が中心となって、野球好きの学生が集まりスタートしました。創部当初は、現在のようにグラウンドにも資金にも恵まれず、練習は、ネットを持参して公園の広場で行ったり、近文球場や宮前の旭鉄グラウンドなどを借りてのジブシー練習だったそうであります。

そのような創成期の先輩方の苦労が結果として初めて表われたのが、昭和55年の北海道地区体育大会での優勝でありました。当時の吉田監督（現部長）の元、河野先生、稲尾先生らの活躍による悲願達成でありました。

徐々に成長を遂げていった野球部にとって、毎年最大の目標としている大会は、東医体であります。夏休みに行なわれるこの大会に向け、部員は全精力を傾け練習にはげんでいきます。この東医体を優勝する悲願が始めて達成されたのは昭和62年、創部14

年目のことでありました。この年は越湖進主将の元、練習を重ね、3回戦、準決勝、決勝と強豪相手の苦しい試合を一戦一戦ものにした結果でありました。当時を振り返った記録を読むと、ウィニングボールがグラブに吸い込まれた瞬間、選手も監督・コーチも皆、感激の涙にくれたそうであります。

我々のもう一つの大きな目標は、毎年6月に開催される全道学生リーグであります。この大会は全道の大学が1～3部のリーグに分かれ、リーグ戦を戦うものであります。全道の強豪チームの中、勝ち抜くのは難しく、長年2部リーグで戦っていました。しかし、平成6年、盛一主将の元、2部リーグを優勝し、1部リーグとの入れ替え戦でライバル札幌医大を下し、1部リーグ昇格を果たしたのでした。

こうして年々力をつけ、今でこそ、東医体優勝3回、全医体優勝1回など成績を残しておりますが、それは1期生の部創設以来20数年にわたる苦労と努力の成果であると思います。そうした伝統を引き継ぎ、今後更なる飛躍を遂げられるよう、より精進していきたいと思います。

Back to 旭川医大

■ 衛生学講座 ■

松井 利仁



本年4月1日付けで京都大学工学部から講師として転任してまいりました。以前にも助手として本学に在職しており、旭川は3年ぶりになります。

3年前と比べますと、ロードヒーティングや、大規模な流雪溝、融雪柵の整備がかなり進んでいます。大阪出身の私にとっては、冬の生活環境が快適になることは、うれしい限りです。

大学の中にも、学内 LAN が整備されるという大きな変化がありました。工学部出身でパソコン好きの私には、これもうれしいことで、専門委員の一人として LAN の運営に携わっています。

本学の LAN は、他大学と比較すると非常に急ピッチで各種サービスの提供が進められています。電子メール、図書検索のサービスはすでに始まっており、本号が配布される頃には、学内ネットニュースのサービスもスタートしているはずです。今後は、WWWサーバの整備なども進められる予定であり、

その際には、学生も含めた多くの方々に協力をお願いすることになるでしょう。

さて、私の専門分野は環境問題の中の騒音に関するものです。騒音による聴力損失などの生理的な影響、騒音の「うるささ」、「不快感」などの心理的な影響といった医学に近いテーマや、道路騒音の環境アセスメント手法の開発といった工学的なテーマを扱ってきました。今後もこれらの分野の研究を進める予定ですが、開設した学内ネットニュースを利用して、新たな研究を行うことができないかと考えているところです。

ネットニュースはネットワーク上の質疑応答などの場です。主に、計算機や趣味に関する話題などがニュースとして流れていますが、本学では、「研究に関する情報交換の場」が設けられています。専門家の意見を聞いたり、情報を仕入れるには非常に役立つと思われます。また、共同研究を推進する場としても利用可能でしょう。本学は医・薬・理・工など種々の学部出身者で構成されています。学内 LAN がこのような多方面の研究者の交流の場となることを期待しています。

(衛生学講座 講師)

研究室紹介

■ 外科学第一講座 ■

稲葉 雅史

久保教授、笹嶋助教授以下16名のスタッフで日夜診療、研究に取り組んでいる。教室の発展には臨床・基礎研究の充実、関連施設の拡充とともに新入医局員の確保が何よりも重要である。しかし、近年特にマンパワーを必要とし、3Kの代表とされる胸部外科は敬遠されがちであるが、外科治療に興味を抱く若い活力・やる気に満ちた新進気鋭の諸君の一層の入局を切望している。当講座は笹嶋助教授を班長とし郷・稲葉両講師がグループ責任者となる心臓血管(循環器)班、平田助手を中心におもに肺・食道疾患の外科治療を担当する腫瘍班および宮本助手が責任者である小児外科グループの3班に分かれ、年間450例を超える手術を行っており道北を中心とした道内医療の中核的役割を担っている。手術は胸部外科疾患が主な対象となるため、術直後からICUにおけるきめ細かい循環・呼吸管理が必要となるが、これらの修得は医師として欠かすことのできない救急蘇生・救急医療に生かされることになる。また、血管外科手技を応用した手術は全ての外科領域の基本となるとともに、QOLの向上を目指す今後の医療においてますます重要視されるであろう。基礎研究は主として臨床面での問題点を基礎実験から検討することを目的としてテーマを選択している。心臓班

では心臓・胸部大動脈手術における虚血心や肥大大心に対する至適心筋保護法や補助循環法の検討が、また腫瘍班では人工気管の開発と移植、同種気管移植、自家気管吻合部の治癒特性の検討、食道癌の悪性度と腫瘍細胞核 DNA 量および HLA 抗原発現に関する検討などの研究が勢力的に行なわれている。さらに血管班では自家動・静脈グラフトの内皮細胞や内弾性板の抗血栓性とその温存および再生過程の詳細な検討から理想的の小口径人工血管の条件を探究するとともに、これら代用血管移植後晩期閉塞の主因である内膜肥厚発生機序の解明および治療法に関し先駆的研究を続けており、卓越した臨床成績と合わせ本邦血管外科では主導的地位にある。新入医局員歓迎会、忘年会に加え年3回のゴルフコンペ、家族づれで行う夏の野外バーベキューパーティー、冬の新年会・スキー遠足は重要な医局行事となっている。

(外科学第一講座 講師)



第42回 地区体 準硬式野球4度目の優勝

第42回北海道地区大学体育大会が、北海道大学の当番で、7月1日（土）～9日（日）まで開催されました。

道内の国公私立大学46校が参加し、本学からは男子9種目、女子4種目に参加して熱戦を繰り広げ、準硬式野球が4度目の優勝に輝きました。

参加種目の成績は次のとおりです。

（学生課）

種目	順位	優勝	準優勝	旭医大
陸上競技(男子)		学院大	北大	第18位 400m2位松尾公美浩
準硬式野球		旭医大	札医大	優勝
バスケット	男	道都大	酪農学園	ベスト8
ボール	女	酪農学園	旭教大	2回戦
バレー	男	北大	学院大	1回戦
ボール	女	旭教大	酪農学園	1回戦
サッカー		専修短大	道都大	2回戦
卓球	男	北海学園	道工大	予選リーグ
	女	岩教大	道医療大	予選リーグ
剣道		北大	道東海旭	予選リーグ
弓道	男	学院大	北大	
	女	学院大	樽商大	
ハンドボール		道都大	北大	2回戦
総合	男	北大	道都大	第7位
	女	酪農学園	北大	第19位



第38回 東医体(夏季) 開催される

第38回東日本医科学生総合体育大会（夏季大会）が、岩手医科大学の主管で、7月21日（金）～8月9日（水）まで36校が参加して行われました。

本学からは男女あわせて24種目に参加。

参加種目の成績は次のとおりです。

（学生課）

種目	順位	優勝	準優勝	旭医大
陸上男子		昭和	慶應	ハンマー投げ3位松尾公美浩
準硬式野球		弘前 福島	北大 秋田	2回戦
ソフトテニス	男	獨協	千葉	2回戦
	女	日医	旭医	準優勝
テニス	男	北大	新潟	準決勝トーナメント7位
	女	新潟	東女	ベスト8
卓球	男	昭和	山梨	ベスト16
	女	北大	群馬	ベスト8
バレー	男	信州	慈恵	ベスト16
ボール	女	杏林	筑波	ベスト8
バドミントン	男	福島	東北	3位 ダブルス2位中村・岩田
	女	東女	旭医	準優勝 ダブルス3位井原・角谷
サッカー		山梨	東邦	1回戦
バスケット	男	自治	秋田	ベスト16
ボール	女	筑波	東邦	敗者復活戦2回戦
柔道		北大	山形	ベスト16 軽重量級3位阪本
剣道		慈恵	慶應	予選リーグ
弓道		慶應	新潟	4位 敢闘賞水上
空手道		群馬	新潟	入賞者なし
水泳	男	弘前	新潟	入賞者なし
	女	秋田	東女	入賞者なし
ハンドボール		自治	北大	7位
総合		新潟	北大	12位

医大祭を終えて

第21回医大祭実行委員長 第5学年 後藤 順一

第21回旭川医大祭はとりあえず終わりました。全体として見てみると、今年は各種企画物がそれぞれ大成功を納め、全体としても非常に盛り上がり、学生に限らず地域の方々にも喜んで頂けたのではないかと考えております。これらの成功は言うまでもなく、参加した学生や、陰で身を粉にして働いてくれた実行委員やヘルパー、その他手伝ってくれた人、更に先生方、事務の方、協力企業等にいたる幅広い力添えがあったからこそと思います。これらの方々に、この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。大変にありがとうございました。

今年は、例年にはない試みを数多くとり入れました。慢性的な実行委員不足を解消する為、各企画団体から必ず一人ヘルパーを出してもらおうようにし、その際、一部の人に負担がかかりすぎることはないよう、罰則を導入したりするなど、関係した方々には大変迷惑をかけたと思います。これ以外にも、広告取りや、チケット売り等、数多くの試みを実際に行ってみました。これらのことは私たち今年の実行委員にとってのみではなく、実はこれからの学祭にとって必要になってくるであろうことを予想し改善したことです。

確かに、今までの実行委員はきつかったと思います。私自身、今年初めて実行委員会の立場から学祭に参加しましたが、今までの苦勞が少し分かった気がしました。学祭に参加して楽しむ人、参加しない人、色んな人がいる中、単に楽しむわけでもなく、人のやりたくない仕事をやらなければならない実行委員。しかもその人数が圧倒的に少ない。(今年に関しては幸いそれなりの人数が集まりましたが) 責任感ある少数の人達のみ、責任がかぶさっている状況を何とかして変えたかったのです。文字通り『ルネサンス』を起こしたかったといっても過言ではありません。

個人主義が更に進行している現代。みんなでやる学祭などに参加せず、自分の時間を大切にすることが楽しい人が多いのかもしれませんが。しかし何かをなし遂げた時の、仲間の笑顔というのを、私はいまだ忘れることができないのです。



入学者選抜方法に関するアンケート結果

入学者選抜方法研究委員会

平成9年度以降の本学の入学者選抜方法を検討するための参考資料として5月下旬に1年生から6年生までの全ての学生と全教官を対象としてアンケートを実施しました。調査期間が短かったにもかかわらず、学生490名、教官167名から回答が得られました。皆様の多大の協力に対して、ここに紙上をかりて厚くお礼申し上げます。

分離分割方式(前・後期日程)で入学した学生が現在1年生から3年生ですので、その集団とそれ以前の選抜により入学した4年生から6年生の集団と、さらに教官を対象としたものの3種類のアンケートを実施しました。以下にその結果を報告します。紙数の関係で全項目にわたって報告できませんがご了解下さい。

1. 学生に対するアンケート

旭川医大の志望順位

前期合格者、後期合格者、4年生以上の各集団の間で異なる傾向が見られた。



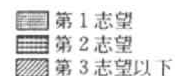
前期合格者



後期合格者



4年生以上

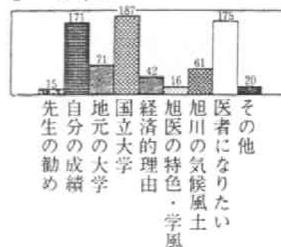


(円グラフ内の数字は%)

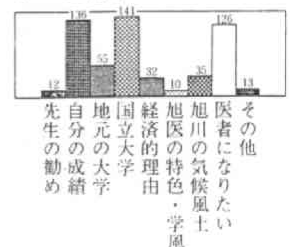
旭川医大を志望した理由

全学年にわたって同じ傾向が見られた。「自分の成績」に見合った「国立大学」の「医学部」であるという3点に回答が集中した。(複数回答可)

1～3年生

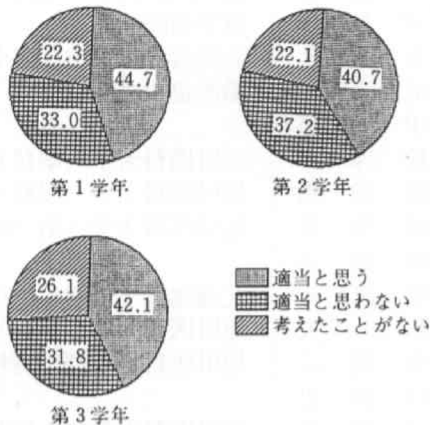


4～6年生



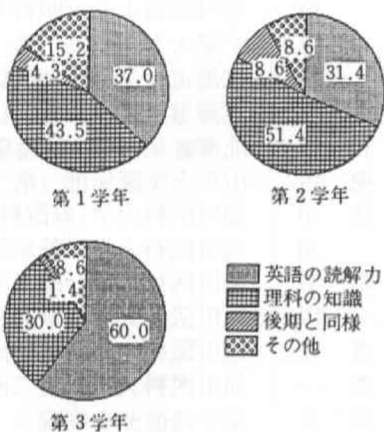
現行の選抜方法の是非について

これは1～3年生への質問であるが、各学年とも同じ傾向が見られた。



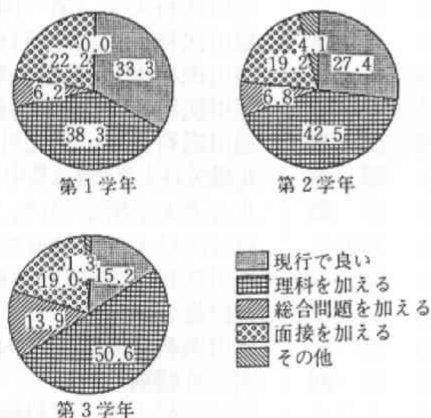
前期の総合問題はどのような内容が適当と考えますか？

これは前期合格者への質問であるが、学年により若干の違いが見られた。



後期の2次試験の試験科目はどのような内容が適当と考えますか？

これは後期合格者への質問であるが、各学年とも同じ傾向が見られた。「理科を加える」という意見が「現行で良い」という意見を上回っているのは注目すべきであろう。



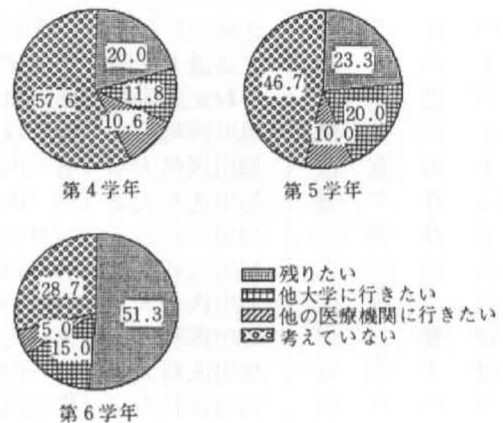
後期日程による合格は不本意と思いませんか？

これは後期合格者への質問であるが、各学年とも同じ傾向で、全体として

不本意であると思わない 163名
不本意であると思う 22名
であった。

あなたは卒業後旭川医大に残りたいですか？

これは4～6年生への質問であるが4、5年生と6年生の間では大きな違いが見られた。



2. 教官に対するアンケート

各個人の意見を述べてもらう項目が多いため、ここにその内容を要約することは困難であるが、現行の選抜方法が医学部の学生を選抜する方法として適当か否かとの質問に対しては、適当であるが70名、不適当であるが73名とほぼ2分されている。

望ましい入学者選抜方法についての意見

この質問に対する教官の回答を紙数の許す限り列挙する。

- 理想論になるが、入学は学力テスト（全員が同一の科目（理系も文系も）を受ける）の成績でクリアカットに決め、入学後に人柄を含む医師としての適性を厳しく評価するのがよいと思う。ただし、年齢的にまだ変化（成長）の可能性のある時期なので、医師としての適性を身につける為の猶予期間は長めにとってあげられれば………と思う。
- 大学2年、又は3年で再試験し、医師になる自覚をもたせる。最初の2年は仮免許と考え、早く方針を決定し医師に向いていない学生を排除すべきである。
- 入学試験で、学生を選ぶ入試よりも本来一定の学生を受け入れてから振るい落とすほうが良いと思う。（欧米方式）
- 医師を養成するという前提がある以上は、対人関係を良好に保てるように、一般常識を持つ人を入学させるべきでは。
- 入学試験を受ける時点での学生の質を云々するより、それ以降6年間の教育の中で、人格成長を促す方がけんめいかと思う。

卒業生の動向

去る3月24日（金）に本学を卒業した98名の勤務（連絡）先は次のとおりです。

また、3月に行われた第89回医師国家試験には本学卒業生108名が受験し、106名（平成6年度卒業生97名）が合格しました。（学生課）

平成7年度 後期分授業料免除 及び延納・分納について

平成7年度後期分授業料免除及び延納・分納を希望する者で、下記基準のいずれかに該当すると思われる者は、学生課厚生係で必要書類を受け取り、平成7年9月1日(金)～9月22日(金)までに申請してください。

なお、申請者については、選考の間授業料の納入を猶予します。

また、不明な点は、同係に問い合わせ願います。

記

1. 授業料免除基準

(1) 経済的理由によって授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀であると認められる場合

なお、平成7年度において原級に留置されている者又は、最短修業年限を越えて在学している者は、免除の対象としない(休学の理由による者は除く。)

(2) 授業料納期前6か月以内(新生児については、入学前1年以内)において学生の学資を主として負担している者(以下「学資負担者」という。)が死亡し、又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、授業料の納付が著しく困難であると認められる場合

(3) (2)に準ずる場合であって、学長が相当と認める事由がある場合

2. 申請書類

(1) 授業料免除申請書

(2) 学資負担者が死亡した場合は死亡診断書

(3) 災害を受けた場合は罹災証明書(市区町村、警察、消防署が発行したもの。)

(4) 市区町村発行の所得証明書(給与所得者については、平成6年分の源泉徴収票を、給与所得者以外については、平成6年分の確定申告書(一面・二面)等の写し(生計を一にする家族全員分)を、また、学資負担者が死亡した場合は、死亡前の所得証明書を併せて添付すること。)

(5) 失業者は、民生員又は職業安定所の証明書

(6) 生命保険の支払いを受けた場合は、当該保険会社の保険支払証明書

(7) 家族の中に就学者がいる場合は、その者(申請者本人及び義務教育の就学者は除く。)の在学証明書

(8) その他家庭事情により参考となる証明書等

平成7年度 日本育英会奨学生の 募集について

日本育英会は、優秀な学生で経済的理由のため就学困難な者に学資を貸与しております。

本学では、日本育英会からの推薦依頼に基づき、出願者の種々の条件を考慮して選考を行い、日本育英会へ推薦します。

ただし、日本育英会では奨学金貸与の種別ごとに推薦基準が定められており、その資格があっても採用枠の関係で推薦できない場合があります。

奨学生の募集要項を、9月1日より公用掲示板に掲示しておりますので、貸与を希望する者は、提出期限に遅れないよう所定の書類を学生課厚生係に提出してください。

なお、募集の時期以外に家計の急変により、学資の支弁に困難な事情が生じた場合は、同係に相談してください。

学生教育研究災害傷害保険の 加入について

本学は、学生の正課中・課外活動中における災害事故補償のために『学生教育研究災害傷害保険』の賛助会員大学となり、下記のとおり加入受付事務等を行っています。

本保険は、学生の互助共済を基本として運営されており、学生生活中の万一の場合に備え、全員の加入を勧めています。

まだ加入していない学生、保険期間の切れている学生は、できるだけ加入するようにしてください。

記

1. 受付期間 自 平成7年10月2日(月)

至 平成7年10月31日(火)

2. 受付窓口 教務部学生課厚生係

3. 保険料 6年間 3,400円 5年間 2,950円
4年間 2,450円 3年間 1,900円
2年間 1,300円 1年間 750円

4. 支払い保険金の種類と金額

種 類	区 分	
	正 課 中	学校行事中
死亡保険金	1,200万円	600万円
後遺障害保険金	54万円～1,800万円	27万円～900万円
医療保険金	実治療日数4日以上が対象 6千円～30万円	実治療日数14日以上が対象 3万円～30万円
入院加算金	1日につき4,000円	1日につき4,000円

旭川医科大学学内LAN(AMEC-NET)の開設にあたって

学内 LAN 管理運営委員会

この度、本学に学内LAN(Local Area Network)が設置され7月より運用が開始されました。学内LANとは学内情報通信網のことです。昨年はこのネットワークの仕様策定から導入まで大変な忙しさに追われました。当初、このネットワークの利用目的は文献検索に主眼がおかれていました。つまり、大学の図書館には膨大な情報が蓄積されているが、必要な資料が迅速に入手できる体制を確立することが必要である。このため、学術情報ネットワークの成果を取り入れて、情報検索にコンピュータを利用し、業務の効率化を図り、利用者に対するレファレンス機能を拡大することが必要である。また、図書館は特定の利用者、特定の時間帯だけ利用できるのではなく広く開かれていることが必要である。例えば、24時間開館するよりは、夜中でも使える通信回線を準備するほうが容易である。この様な訳で内田前図書館長(今年3月停年退官:名誉教授)が仕様策定委員会、学内LAN導入委員会を組織され3月には念願のネットワーク(ハードウェア部分)が完成しました。現在、講義実習棟、基礎臨床研究棟、図書館、附属病院などを光ケーブルによる基幹LAN(100Mbps)で結び、更に支線LAN(イーサネット)で各附属施設や講座のパソコンに接続されています。また、実験実習機器センターのご協力により同センター3階に学内LAN管理室が準備され、基幹LAN監視装置をはじめ各種サーバが設置されています。図書館にはCD-ROMサーバや図書検索サーバが、附属病院にはUMINサーバが設置されています。

さて、4月には片桐図書館長を委員長とする学内LAN管理運営委員会が発足し、ソフトウェア部分の検討が始まりました。特に、運営委員の坂本教授(生理学第二講座)には豊富な知識と経験を生かして下部組織である専門委員会の指導的役割を果たして頂いております。また、佐藤洋一助教授(解剖学第二講座)には岩手医科大学教授(平成7年8月1日付)としてご榮転になられる直前まで献身的なご協力を頂きました。

4月25日には、LAN管理室において清水学長のご出席を頂き学内LAN披露式が行われ、国の内外に対して旭川医科大学学内LANの開設を宣言いたしました。そして6月19日にはLAN管理室員として岡崎知也氏が着任されました。同氏は平成7年3月北海道大学大学院工学研究科修士課程を終了された新進気鋭の研究者であり工学技術者であります。学部、大学院を通して青木由直教授のもとで情報工学を専攻され、コンピュータグラフィックスやマルチメディアネットワークの技術にも大変興味をお持ちであるとの事で強く思っています。

このような経緯を経て7月に一般ユーザに開放することが出来た訳です。専門委員の先生方や、専門委員と共に協力頂いた先生方、そして仕様策定、導入から深く関わって下さった図書課を始め事務局の方々に対し厚く御礼申し上げます。

現在は文献検索、電子メールなどが主な利用方法ですが、これらについても益々の機能拡張を検討しなければなりません。また、附属病院のオーダーリングシステムとの接続とセキュリティ管理の問題も解決しなければなりません。さらに、将来旭川医大を核とする地域ネットワークの構築による地域医療の充実についての検討の際に、この学内LANが頼もしい存在になってほしいものです。これらのためにも、多くの方々に利用して頂き助言と励ましの言葉を是非お願いいたします。

(副委員長 谷本 光穂)



LAN管理室で行われた「学内LAN披露式」風景



窓外

木村昭治

思い出の夏

今年の旭川の夏はそれらしくない涼しさに過ぎようとしているが、関西出身の私は最近無性にあのむし暑い本州の夏が恋しく思われる時がある。もう15年以上も夏には帰省したこともなく、少年時代のあの暑さも忘れそうである。私がかつて居たニューヨークの夏は2～3週間は気温は非常に高くはなるものの木影では涼しい気がしたし、イギリスではむしろ暑さを求めて南のブライトンなどに出かけたものだった。それでも水温は低くよくこんな所で海水浴が出来るものだと感心したものであったが、砂浜の一角には（大抵の海水浴場で）セミヌードの若い女の子が日光浴をしており、その振る舞いが非常に自然だったのが印象的だった。

少年時代の私にとって夏と言えばお化けとスイカだった。母は奈良県の明日香村（飛鳥時代の中心地）に隣接した南山という地の寺の出で、毎年夏休みには私と私の兄を連れて里帰りしていたが、私と兄は何故か居心地が良く、ほぼ休みの初めから終わり迄そこで過ごしていた。大してすることもなく単調な毎日だったと思うが境内は木が多くセミの幼虫を掘り起こしたり抜けがらを集めたりして夏休みの宿題の材料にした記憶がある。日中は本堂で昼寝をするのが日課であったがその前にスイカをなわでしばって井戸につり下げ冷しておいた。昼寝から目ざめさっきのスイカを本堂の木の階段の所で種をまき散らしながら食べるのが楽しかった。私が物心ついて初めて恐い思いをしたのはやはりそこだった。本堂の両片スミに御本尊とは別に小さな仏像があって、そこでも毎朝夕念仏が唱えられていたようであるが子供は入ってはいけないと言われていた。私はある時そのうちの1つに入ってみた。そこには仏像があるだけで普通の部屋であったが、ふすま絵だったか、掛け軸だったか記憶が薄れてしまったが、地獄の様子が克明に描かれていた。髪ふり乱した男女が針の

山を登ったり、血の川で溺れそうになっている絵図で、人間の形相が子供の目にとって大変恐ろしくしばらく頭から離れなかった。後日祖父よりその絵の説明を受けてからは、普段はケンカの絶えなかった兄弟2人であったが、少く共夏休みの間は非常にいい子だったと思う。

この家には当時大学生だった長男が居たのだが、彼は年少の私をよく映画に連れていってくれた。映画館が一番近くの町榎原市に行くのだが10km余の道のりを自転車の後ろに乗せてもらって出かけていた。夏休みは必ず怪談映画で、話の筋は至って簡単で出てくる幽霊も髪ふり乱し、まぶたが紫色に腫れ上がった女の幽霊と決まっており、出る場所もタイミングも分るのだがその音響効果で非常に恐い思いをしていた。そして必ずあの地獄絵の女の顔と重なり恐怖心が増巾されるのだった。昼過ぎから出かけていくので映画が終わるのは、必ず日が落ちてからだった。帰路は数本あるのだが大学生の従兄は、映画のあとは必ず、途中が墓地と池にはさまれた路を通って帰った。今は住宅街と化してしまったその場所は当時家1つなく真暗だった。彼はその場所迄くるとさっき見た映画の話を始め、時々墓地や池の方を向きながら私に何か問いかける。しかも声の調子を変えたりするものだから私は彼から離れまいと自転車の後ろから彼にしっかりとしがみついていた。しかし、このしがみついている彼が本物なのかどうか不安になり彼にそのことを問い続けていた。私はあの暗闇の中で平気で幽霊の話が出来る従兄が唯それだけのことでうらやましく又尊敬していた。その彼を数年前、私の父の葬式の時の写真で拝見したが（私は海外に居て出席できなかった）けさの色よりしてりっぱな僧侶に成長されていたことを知った。

又いつの日かあの路を歩いてみたいと思うが今はもう当時の面影もなく、お化けの出ることの出来る環境ではなくなっていることだろう。今息子達に同じような幽霊の話をして恐がらせようと思うのだが彼らは身近にあるものと連想出来ず、恐い想像を増巾出来ないで、こちらの目論見は一向に成功しない。昔ながらの幽霊は、他の稀少生物と同様に環境の変化により絶滅の危機に頻している様である。

（病理学第二講座 助教授）

訃 報



本学初代学長山田守英氏（89才）には、6月27日（火）午後10時29分前立腺がんのためご逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

同氏は昭和48年9月旭川医大設置と同時に初代の学長に任命され、昭和56年6月任期満了により退官、同年7月本学名誉教授の称号を授与され、昭和58年2月本学の参与に就任されました。この間、本学の管理運営、医学の教育・研究に限りない熱情を注が

れ、医学の発展並びに地域医療の発展にご尽力され、その功績は誠に顕著でありました。

また、学術研究面では微生物学の広い分野にわたり、初期の痘毒感染における免疫学的研究、発疹チフスの即時診断法の研究、伝染病下痢症の研究にはじまり、ウイルス感染における干渉の研究、後年には、ウイルス感染における干渉現象の研究からインターフェロンの産生機構並びに作用機構の研究に力を注がれ、その独創的な研究業績は、国内はもとより国際的にも高く評価を受け、昭和52年11月勲二等旭日重光章を授賞、昭和56年11月北海道文化賞を授賞、また、昨年9月には北海道開発功労賞を授賞されました。（庶務課）

外国人留学生交流会 実施される

7月19日（水）外国人留学生オリエンテーション及び交流会が、当麻町の鍾乳洞とスポーツランド内の各施設で実施されました。

これは留学生を市内近郊の文化施設等に案内し、日本を理解してもらうとともに、指導教官、チューター、職員及び留学生相互の交流を図ることを目的に毎年実施しています。

鍾乳洞、パピヨンシャトーと見学の後、フィールドボールでは、青空の下気持ちの良い汗を流し大いに交流を深めることができました。

（学生課）



教官の異動

退職	7.7.31	麻醉科蘇生科	講師	百合野方希
◇	7.7.31	解剖学第一	助教授	佐藤 洋一
昇任	7.5.16	小児科	講師	沖 潤一
◇	7.8.16	化学	教授	中村 正雄

表紙の絵について

表紙及び右の絵は、北海道北都商業高等学校の教諭の傍ら、道展の会員として美術界でご活躍の宮本俊雄氏の代表作「秋の日」と「冬の坂道」であり、平成7年1月に同氏から本学が寄贈を受け、学長室及び会議室に展示し、多くの貴賓、教職員、学生に鑑賞されております。

「秋の日」は、穏やかな日中の山道（士別市郊外）の秋の日を、又「冬の坂道は」、遠くの空まで澄んだ元旦の日の坂道（旭川工業高等学校裏）を描いたものです。

（庶務課）



冬の坂道